

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970201232		
法人名	医療法人孝栄会		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県足利市島田町754-1		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽だまりは今「チェンジ」の時期に来ています。食を通して日々の生活を楽んできましたが、今は「安全」に日々過ごすことの大変さを身をもって実感しているところです。毎日、予測を超えたことが起き、バタバタしているうちに気が付くと外は夕暮れ。「今日はいったい何をしていたのだろう…」なんて思うこともしばしば。悩んで、悩んで、そして毎日語り合っています。どうしたら、皆さんに楽しんでもらえるのか。そして安全も守れるのか。まだまだ結論は出ませんが、ひとつだけ自身を持って言えることがあります。それは、皆さんの笑顔が見たい！ひとつでも多くの笑顔が見たい！そのためにみんなで力を合わせよう！…。と、考える一方で、やっぱり食べることに貪欲な私たちですから「骨を強くするんだから、牛乳残さないでよ。風邪ひいたら、外食行けないからね。」と今日もバトルは続く…。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは母体である医療法人職員が地域において認知症高齢者への支援の必要性を感じ、設立準備から開所まで携わる等、職員の意向や思いが詰まったホームである。名称や理念も職員との協議により作られている。理念には、「その人らしく」「いきいきと」を掲げ、いきいきと生活していけるよう、何がその人らしいのかを日々考えながら、コミュニケーションも大切にしながら支援に取り組んでいる。また、利用者個々のペースを尊重し、安全面を踏まえた見守りや入居者にもできるかぎり役割を担ってもらい生活にメリハリが得られる様、支援に努めている。ホームでは地域の一員として自治会に加入し、地域の清掃活動や育成会主催の廃品回収等に参加している他、地域の高齢者を対象とした「友々サロン」や地域行事への参加を通して、地域住民からの理解や協力が得られる等、地域との連携や交流に積極的に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「その人らしく」「いきいきと」生活して頂くという目標を職員全員で共有し、理念実践のためにどうしたらよいかを考えながら入居者と向き合い、話し合い、共に行動しながら取り組んでいる。	利用者が重ねてこられた経験、今持っている力、今住んでいる地域(町)でホームでの支援を最大限に活かす事を理念としている。カンファレンスやケアプランの見直し時等に理念の共有に努めると共に入居者本位の生活支援の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会や育成会の行事、高齢者のサロンへも積極的に参加し、隣近所との付き合いも大切にしながら、当事業所で何が協力できるかを相談している。	自治会に加入し、体育祭や文化祭等の地域行事へ参加や地域の高齢者が集う、「友々サロン」にも手作りの菓子を持って入居者が3~4名づつ交替で参加する等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な事業は行っていないが、運営推進会議や行事等に参加した時などは、認知症の理解や支援方法などを、地域の人々にできるだけ伝えるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で得た意見や情報は最大限活用しており、入居者と地域の高齢者や子供たちとの交流を深める提案を行っている。	運営推進会議は、2か月毎に入居者、家族、自治会長、民生委員、市職員等の参加により開催している。会議では参加者との活発な意見交換が行なわれ、参加者からの提案により老人クラブの来訪やお祭りの際に子供神輿がホームに寄って来てくれる等、会議をととして、地域との交流を深めたり、入居者のサービス向上に役立っている。	会議のマナー化を防ぐためにも議案の年間計画化や議案の内容によって新たに参加者を選定する等に期待したい。また、会議を活用し、ホームの取組状況等を外部へ周知していく情報発信の強化にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じた行き来以外は、電話による相談や連絡が主になっているので、今後はサービス向上のために協力できることがあれば、積極的に行っていきたい。	市担当職員には運営推進会議の参加時にホームの現状や課題等を把握してもらっている他、電話でも制度上の相談等を随時行なっている。市主催の「友々サロン」への参加により、入居者の生きがいづくりや地域とのつながりが深められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除関連の研修に参加した職員の伝達や勉強会を行い、職員全体で身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアを実践している。現在は入居者の安全のため門のみ施錠している。	職員は勉強会等で身体拘束に該当する行為や防止方法について学んでおり、安全に配慮しながら見守りによる身体拘束の無い支援に取り組んでいる。日中は玄関への施錠は行わず、庭へは自由に出られる様になっている。	

陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修に参加した職員の伝達や勉強会を行い、虐待について学ぶことで入居者の尊厳を守り、虐待防止に努め、法人全体でも虐待防止に対する取り組みを始めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護関連の研修に参加した職員の伝達や勉強会を通して、成年後見制度等について学び、個々の必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は、不安や疑問を残さないように十分な説明を行い、理解し納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を第一と考え、日頃の関わりの中で不満や苦情など率直な気持ちが言えるよう努め、家族にも訪問時や電話の際などに気軽に意見や要望を言ってもらい、運営推進会議での家族の意見も運営に反映させている。	入居者には馴染みの関係から日々の支援の中で常に要望等の確認に努めている。家族には運営推進会議の参加時や個別の来所時等に職員が積極的に話しかけ、意見や要望等の把握に努めている。職員に名札を付けてほしいという要望があった事から、名札を付けるに至っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見を聞く機会を定期的に設け議論を行い、管理者は毎月のミーティングや日常の業務の中で出た意見を取り上げ、職員間で十分議論し運営に反映させている。	職員は管理者へ日々の支援の中や毎日のミーティング時に意見や提案を行なう事が出来る様になっており、出された意見等は職員で協議し、運営に反映させている。また、ホームと法人の合同会議も行なわれており、運営者との協議の場も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し処遇に反映させ、外部の研修や資格取得のための研修にも積極的に参加を促し、向上心を持って働けるように努め、規定以上の職員を配置し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での段階に応じた職員育成のための研修を受けることができ、職場内でも定期的に勉強会を行い、希望に応じ外部研修にも参加できるよう勤務調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市内の同業者と定期的に交流する機会を設け、意見交換や相談を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と会い、希望や不安や困っていることなどを時間をかけて聴いたり、ホームを事前に見学することで、雰囲気や伝わり不安が少しでも解消して、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の入居にいたるまでの思いを受け止め、入居に対する不安や希望、本人の様子などについて十分話し合い、なんでも話し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを受け止め、その思いに相違がある場合も理解した上で、入居以外の必要性も考慮し、関係機関と連携しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者としてではなく、共に暮らす者として喜怒哀楽を分かち合い、お互いが支えあう関係を築きながら、その人らしさを大切にするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、共に本人を支える協力者として接しており、本人の希望をかなえるための協力をお願いしたり、将来について話し合いながら、信頼し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には、継続して付き合えるように訪問しあうことを支援し、馴染みの場所にも積極的に出掛けるようにしている。	本人や家族からの情報を参考にしながら、馴染みの場所への訪問を実施している他、知人との関係が途切れないよう、ホームに来てもらうだけでなく、知人宅にも訪問しながら馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、大きなトラブルにならないよう見守りながら、入居者同士が関わりあい、協力し合い、反発しあいながらもお互いを意識して生活していけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、継続的な関わりが必要な方には、状況を伺いながら必要な情報を提供したり、関係先との調整を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、その人らしい暮らしをするための希望を本人と話し合いながら支援し、困難な場合は、本人にとって何が最良かを考えながら支援している。	職員は入居者との馴染みの関係や言葉、表情やしぐさ等から本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合等には生活歴や趣味趣向等を家族からも確認したうえで、日々の生活状況を見極めながら本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後に、これまでの暮らし方や生活歴、生活環境などをできる限り本人や関係者から聞き、記録に残し、情報を共有しながら生活に生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の様子や心身の状態、持てる力を把握し共有して、生活の支援に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師や看護師の意見をふまえて、カンファレンスを行い、本人がより良く暮らせるような介護計画を作成している。	介護計画は本人や家族の要望を踏まえ、職員間で協議したうえで作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行なっており、医師や看護師からの意見も参考にしながら、入居者の状態に応じた見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中での変化や気づき、ケアの実践の結果を個別記録に記入し、職員間で共有しながらケアの工夫につなげたり、介護計画の見直しの際に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の医師や看護師と連携し、体調や状態の変化に気をつけながら暮らしの継続をはかり、法人内の他部署の職員の協力を得ながら、暮らしの向上に努めるなど、できる限り本人や家族のニーズに答える努力をしている。		

陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者を理解してくれ、安心して任せられる理美容室や、行き来できるお宅を少しずつ増やしていき、入居者の生活がより豊かになるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援し、新たに受診する場合も、必ず説明し納得して頂いてから受診している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診の際には家族に付添いをお願いしている。身体の状態や受診結果、服薬等、職員は家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員が週に一度訪問した際に、日常生活での気づきや変化を報告すると共に、疑問に思うことを相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、病院関係者や家族と情報交換や相談をしながら、できるだけ早期に退院できるように協力医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり看取りが必要になった場合については、家族と医師と話し合い、法人内のできることを十分に説明し、納得した上で指針を共有している。	ホームでは看取りに関する指針を設け、母体法人である協力病院との連携により、本人や家族の要望にできるかぎり添えるよう取り組んでいる。看取りにおいても本人の状態やホームでの対応範囲等を医師とも相談しながら最善の支援方法により対応している。	今後、住み慣れた当ホームでの看取りの希望も増えてくると思われることから、重度化や看取りへのホームの方針を職員間で共有や理解に努めると共に、個々の状態を中長期で見据えながらの支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、入居者の急変や事故発生時の対応マニュアルを把握し、応急手当普及員の資格を持つ職員を中心として、実践に役立つように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の関係職員も参加し、様々な場合を想定した消防訓練を年2回実施し、運営推進会議に地域の防災担当者に参加してもらい、地域の災害についての情報や助言を得ながら協力も呼びかけている。	防災訓練と消防訓練を年2回、地域の防災担当者や併設事業所職員等の参加も得ながら実施している。地域との協力体制もあるが、近隣住民の高齢化や日中の不在等、有事の際の協力は難しい面も否めない状況にある。自治会の防災訓練にも入居者と共に参加し、地域との連携に努めている。	同法人の併設事業所との協力体制の構築や地域との連携も図られているが、夜間等の職員が少なくなる時間での災害発生時に迅速に通報、応援要請、避難誘導が行える様、今後もあらゆる状況を想定した訓練の実施や職員一人ひとりが実践で対応できる様な取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわず親しみのある言葉掛けを心がけ、個人情報の取り扱いに注意し、日々のやり取りや支援の際のプライバシーへの配慮にも気を配っている。	年長者としての入居者には常に尊敬や敬意をもって接しており、馴染みの関係であっても言葉使いや声掛けは、馴れ馴れしいものにならないよう努めている。また、入浴の際等にも順番は男女を分ける等、羞恥心にも配慮した支援に努めている。個人情報の管理も徹底しており、事務所内にて適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何ごとにも本人の意思を確認し、その人のわかる力に合わせて説明し、難しい場合でもどこかに本人の意思が反映されたり、本人らしさができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、その人の性格や力を考慮し、希望を聞きながら一日を楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行き、希望があれば毛染めを手伝い、好みの洋服を着て頂き、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は料理本やチラシを見ながら、入居者の希望や季節を取り入れ一緒に決め、買い物・調理・後片付けも一人ひとりに合わせて行い、食事も楽しみながら一緒に食べている。	献立は入居者の希望や季節感を取り入れたものを職員が作成しており、買出しや調理等も職員と共に入居者一人ひとりの能力に合わせて行なっている。職員は入居者と共に関心した食事を会話を楽しみながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の助言や勉強会を参考に栄養バランスのとれた食事を工夫し、食事前の発声練習をし、一人ひとりの咀嚼や嚥下、栄養状態に合わせた形態や量を提供し、水分は十分摂れるようにチェック表で確認しながらすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きと入れ歯の手入れを一人ひとりの力に応じて支援し、夜間は入れ歯の消毒を行い、口腔内の清潔保持に努め、必要時は歯科受診している。		



陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方にも可能な限り日中はパンツを使用し、一人ひとりの排泄パターンや排泄前の素振りや習慣に配慮し、自分の力で気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄チェック表にて排泄状況を把握しており、個別の排泄パターンやサイン、時間帯を見計らいながら、トイレへの誘導を行っている。トイレでの自立した排泄支援に取り組んでおり、できるかぎりおむつの使用は控えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や乳製品をメニューに取り入れ、野菜の摂取の少ない方には野菜ジュースを飲んで頂き、水分摂取や適度な運動を心がけているが、それでも便秘がちな場合は医師と相談し、必要に応じて服薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持に気を配りつつも希望やタイミングを優先し、時間や順番は本人の都合で決め、話をしながらゆっくり入れるように支援している。	入浴回数は週3回の入浴をできるよう支援している。入浴は午後4時から入浴時間としており、入浴の順番や時間、温度等、本人本位に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりに合わせており、眠れない方には安眠できる環境をつくり、疲れている方には飲み物や落ち着ける場所を提供し、日々の体調や行動に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬の情報を共有し理解しており、袋の工夫や二重の確認をして確実な服薬ができるよう支援し、状態の変化を医師と相談しながら、薬を減らしたり調整してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事は個々の力に応じて分担して行い、得意分野や趣味を活かせるように働きかけ、イライラしている方には、気分転換になるようなことにお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者を優先しながら、毎日交替で買い物や散歩に出かけ、歩行が困難な方には戸外にあるベンチで過ごして頂き、普段行けないところには個別に計画を立てたり、家族に協力してもらいながら、できるだけ希望に沿うように支援している。	ホーム周辺への日々の散歩や食材の買出し等に出掛けている他、個別の要望による外出には家族からの協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。	



陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しく預かっている方にも、自由に使えることを伝え、外出時には持参して好きなものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由であり、一人では困難な方には、希望の相手とやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井も高く、外の景色が見え、自然な光や風が入り開放感があり、不快な音もなく落ち着いた雰囲気になっており、生活感や季節を感じられる展示を工夫し、居心地良く生活できるように配慮している。	共用空間はゆったりとした空間に清掃が行き届き、温度や換気も適切に管理されており、居心地の良い空間がつけられている。季節感を活かした飾り付けが意識的に掲示されており、入居者が各々にソファやダイニング等で思い思いに過ごす姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファやベンチ、掘ゴタツを置き、気の合った入居者同士で過ごせたり、独りになれたり、と思い思いに過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族が自由に物が置けるようになっており、好きなものや落ち着いたものを身近に置いて、居心地良く過ごせるように配慮している。	入居時等に本人へ混乱や違和感を抱かせない様に、本人や家族に馴染みの品々の持込みを呼掛けている。各居室には本人が使い慣れた筆筒や椅子、テレビや好きな草花等が持込まれ、思い思いの飾り付け等も行なわれており、個性的で居心地良い居室をつくりあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい場所に時計やカレンダー、季節感のあるものを置き、居室入口に目印をつけ、台所は自由に利用できるよう安全に配慮し、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、混乱なく自立して暮らせるように工夫している。		